



TOHOKU
UNIVERSITY

平成29年度【東北大学学生生活調査】のまとめ

東北大学生の生活

Life of Tohoku University
Students



平成29年度【東北大学学生生活調査】のまとめ

東北大学生の生活

Life of Tohoku University
Students

はじめに

ここに2017（平成29）年度に行った第12回「東北大学学生生活調査」のまとめである「東北大学学生の生活」をお届けします。

東北大学の学部と大学院に在籍する学生を対象にしたこの「学生生活調査」の目的は、「学生生活の実態を把握し、東北大学においてよりよい生活を送ってもらうための基礎資料を得ること」です。第1回調査は1995（平成7）年度に行われました。以後、隔年で実施しており、今回で12回目になります。分析した結果は、第4回調査までは冊子体の報告書を作成して内部資料としていましたが、第5回調査からはこのようなりフレット形式の概要版を作成し、広く公表しております。

上記のように本アンケートの目的は、学生の皆さんが置かれている環境をより詳しく把握することで、よりよい学生生活を送ってもらうための施策の立案に資することを目指していますが、直接挙げられた要望が実現したこともこれまで多々ありました。たとえば、川内北キャンパスの学生食堂の改修や増築、キャンパスバスの運行・整備、仙台市交通局の協力の下で市バスや地下鉄のフリーパスが導入されたことなどは、その例であります。また、カルト教団からのしつこい勧誘やブラック企業バイトに関する相談体制の整備、キャリア教育や就職活動に対する支援体制の充実なども、本生活調査が基になっております。その意味で、学生の要望を大学が把握する重要な機会とも位置付けることもできます。

今回の調査に当たり、学生生活支援審議会の下に「第12回東北大学学生生活調査ワーキンググループ」を設置しました。前回回に続き今回もウェブサイトを利用したアンケート調査とし、2017年11月に行いました。今回は最終的に3,482名の学生からの回答があり、全対象者数に対する割合は19.9%でした。これは前回に比べ、回答者数で約670名、割合にして4.2%上昇したことになります。前回に続き回答率が大幅に上昇しており、アンケート結果の精度向上につながっております。

改めて本調査に参加された学生の皆さんに感謝いたします。また、ワーキンググループの各委員の先生方には、アンケート項目の検討・設定、調査への働きかけ、部局内での広報、回答の集計や分析に尽力していただきました。感謝申し上げます。最後に、本調査結果を各方面で様々な施策づくりに有効に生かしていくことを表明したいと思います。
2018年3月

東北大学 | 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)
学生生活支援審議会 委員長

花輪公雄

目次

A	調査に協力してくれた学生の皆さん	02
	●調査の概要 ●回答者のプロフィール ●東北大学に対する誇り ●東日本大震災の影響	
B	通学	03
	●キャンパス利用状況 ●通学のための所要時間 ●通学のための交通手段	
C	学習	04
	●学習等にかけた時間 ●教職員との関わり ●大学生生活の満足度 ●資格取得や就職のための活動	
D	研究	06
	●現在の所属までの経歴 ●登下校時間 ●研究関連の支出(過去1年間) ●研究の進捗状況	
E	サークル・課外活動	07
	●学友会員としての意識 ●学友会の団体・サークル加入状況 ●サークル加入の動機 ●ボランティア活動の経験	
F	国際交流	08
	●国際交流の経験 ●グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム) ●日本人学生の海外留学	
G	家庭・生活の状況	10
	●住居の種別 ●配偶者・子供の有無 ●受けている経済的支援 ●家計支持者 ●授業料を主に負担している人 ●家計支持者の職業 ●経済的ゆとり感 ●入学後経験したアルバイト ●アルバイトした時期 ●アルバイト収入の使途	
H	キャンパス・学生支援	12
	●施設・設備等の満足度 ●学生支援の充実度	
I	心と体の健康	13
	●学生相談・特別支援センター(学生相談所・特別支援室)の利用経験、認知度 ●現在の悩みや迷い ●悩みの相談相手 ●朝食の摂取について ●大学における居場所	
J	キャンパス内外での安全	14
	●避難場所の認知度 ●キャンパスの安全性 ●事件・事故の被害 ●海外渡航経験と旅行保険	
K	ハラスメント	16
	●本学のハラスメント問題への取り組み ●ハラスメント相談窓口の認知度 ●ハラスメント被害の経験	
L	進路・就職	17
	●インターンシップへの応募・参加経験 ●卒業後に希望する進路 ●希望する職業 ●就職を希望する国	

東北大学学生生活支援審議会 第12回東北大学学生生活調査ワーキンググループ

安達 雄一(教育・学生支援部)	◎菅原 俊二(総長特別補佐(学生支援担当)/歯学研究科)
池田 忠義(高度教養教育・学生支援機構/学生相談・特別支援センター)	杉本 和弘(高度教養教育・学生支援機構/教育評価分析センター)
○猪股 歳之(高度教養教育・学生支援機構/キャリア支援センター)	日出間 純(生命科学研究科)
甲斐 健人(教育学研究科)	松河 秀哉(高度教養教育・学生支援機構/教育評価分析センター)
粕壁 善隆(高度教養教育・学生支援機構/グローバルラーニングセンター)	吉田 明弘(教育・学生支援部)
木内 喜孝(高度教養教育・学生支援機構/保健管理センター)	

五十音順(◎委員長、○副委員長)

調査の概要

	学部	大学院	無回答	合計
文学部・文学研究科	120	42	1	163
教育学部・教育学研究科	51	19	0	70
法学部・法学研究科	92	17	2	111
経済学部・経済学研究科	175	16	1	192
理学部・理学研究科	274	208	0	482
医学部・医学系研究科	230	140	1	371
歯学部・歯学研究科	27	22	1	50
薬学部・薬学研究科	84	60	1	145
工学部・工学研究科	817	501	3	1,321
農学部・農学研究科	137	97	1	235
国際文化研究科	0	16	0	16
情報科学研究科	0	107	1	108
生命科学研究科	0	78	4	82
環境科学研究科	0	84	4	88
医工学研究科	0	37	0	37
教育情報学教育部	0	10	0	10
無回答	0	1	0	1
合計	2,007	1,455	20	3,482
男	1,376	1,066	8	2,450
女	631	385	4	1,020
無回答	0	4	8	12

※本報告書において、「大学院」とは博士課程前期二年の課程、博士課程後期三年の課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を指す。このうち、博士課程前期二年の課程、修士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を「修士課程」、博士課程後期三年の課程と博士課程に在籍する学生の回答を「博士課程」と表記している。

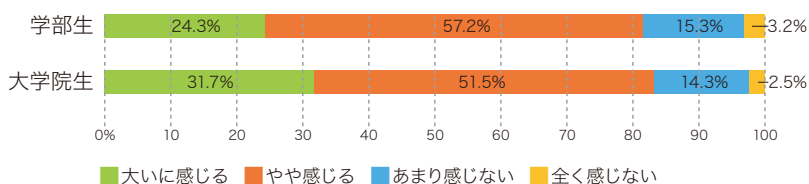
●「東北大学学生生活調査」は、東北大学に在籍する学生の勉学、日常生活上の意識および生活の実情を把握し、学生への支援を充実させていくための基礎資料を得ることを目的として平成7年度より隔年で実施されている。今回で12回目の調査となり、東北大学学生生活支援審議会に設置された第12回東北大学学生生活調査ワーキンググループが実施に当たった。

●第12回東北大学学生生活調査は、東北大学の学部と大学院に在籍し、調査が可能であるすべての学生を対象として、平成29年11月に実施した。学生には個人宛メールを含む学内システムや掲示・配布物等を通じて調査実施を案内し、平成29年11月1日現在の状況について専用Webページで回答してもらった。回答者数は3,482名で、有効回収率は19.9%であった。調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝したい。

回答者のプロフィール

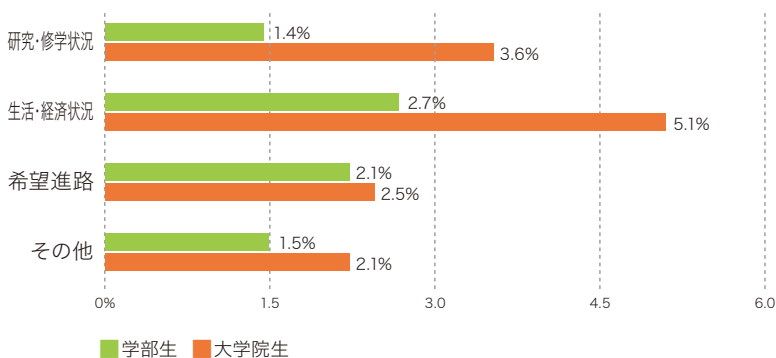
- 回答者の性別は、学部生が男性69%、女性31%で、大学院生が男性73%、女性27%であった。また、自身が留学生であると回答したのは、学部生では2%で、内訳は私費留学生が53%、国費留学生が37%、国費以外の奨学金留学生が10%であった。大学院生では18%が留学生で、私費留学生が57%、国費留学生が32%、国費以外の奨学金留学生が11%であった。

東北大学に対する誇り



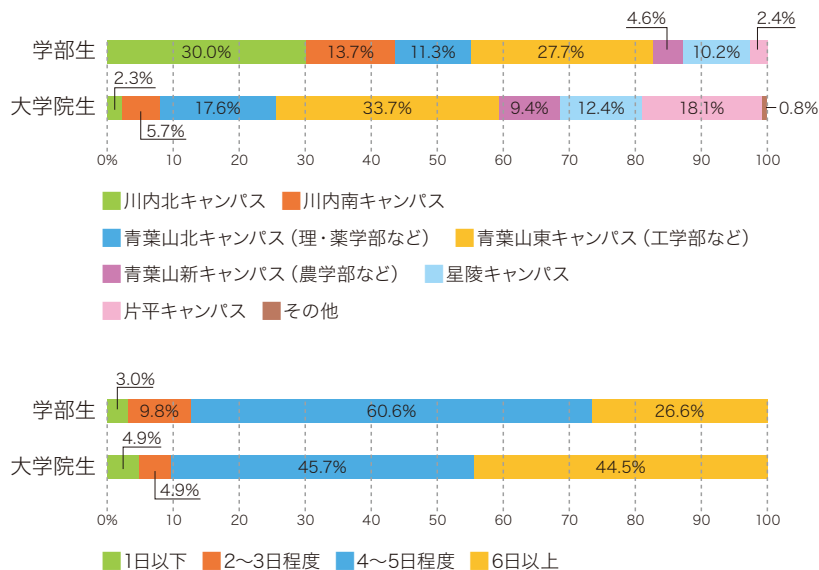
●現在の東北大学に対する誇りを、「大いに感じる」が学部生では24%、大学院生では32%であった。同様に「やや感じる」がそれぞれ57%、52%で、「あまり感じない」と「感じない」の合計が学部生で19%、大学院生で17%であった。

東日本大震災の影響



●「研究・進学状況」において、現在でも東日本大震災の影響を受け続けていると感じている学生は、学部生で1%、大学院生で4%。研究内容が防災や復興関連のテーマであることなどが多く挙げられている。「生活・経済状況」は、学部生で3%、大学院生で5%。保護者の収入の減少、家屋の損壊や転居などが挙げられている。「希望進路」では、学部生で2%、大学院生で3%。「その他」では、学部生・大学院生ともに2%であった。震災が東北大学を目指すきっかけになったことなどが多く挙げられている。

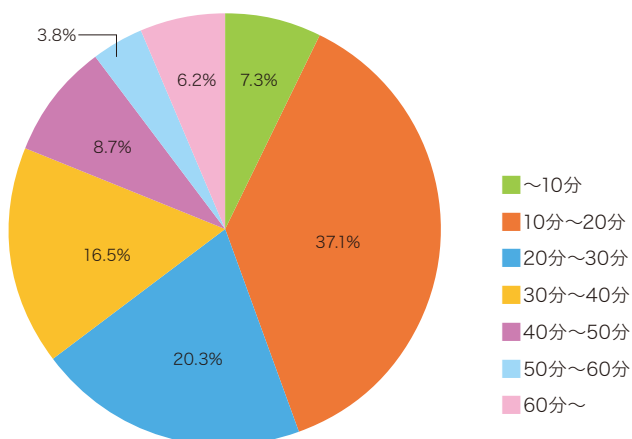
キャンパス利用状況



● 東北大学の各キャンパスを訪れる学部生と大学院生の各々の延べ人数の割合は、川内北キャンパス30%、2%、川内南キャンパス14%、6%、青葉山北キャンパス11%、18%、青葉山東キャンパス28%、34%、青葉山新キャンパス5%、9%、星陵キャンパス10%、12%、片平キャンパス2%、18%であった。

● 平成29年4月から7月の授業期間中に、各キャンパスを修学・研究のために登校した日数の平均は、各キャンパスともに90%近くの学生が4日以上で、学部生、大学院生ともに4~5日程度が最も多かった。

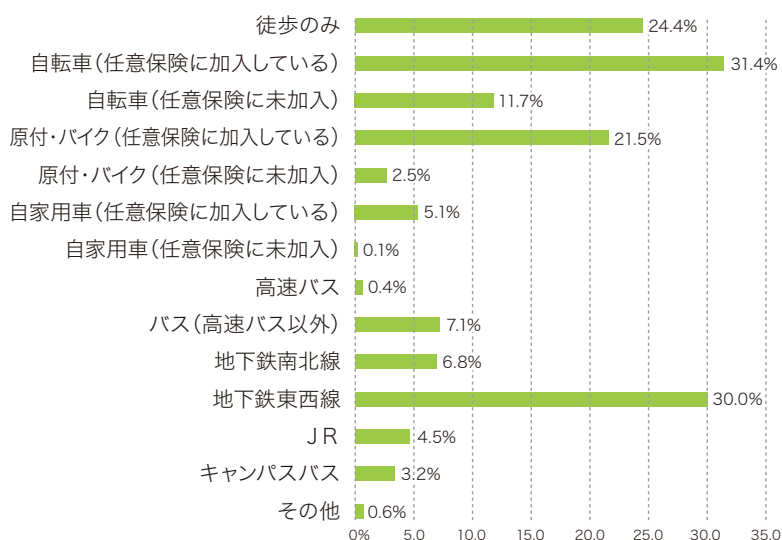
通学のための所要時間



● 自宅から最も利用するキャンパスまでの片道の平均所要時間は、10分~20分が37%で最も多かった。

● 10分未満が7%、20分~30分が20%で、30分~40分が17%であった。

通学のための交通手段 (複数回答)

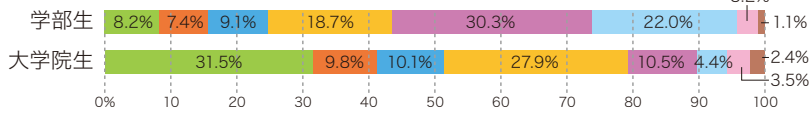


● 交通手段で最も多いのは、自転車であり、任意保険加入、未加入合わせて43%、次いで地下鉄東西線30%、徒歩24%、原付・バイクの任意保険加入、未加入合わせて24%の順であった。

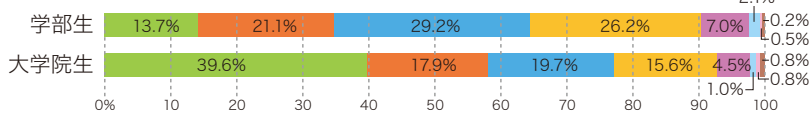
● 任意保険未加入者の割合は自転車12%、原付・バイク3%、自家用車0.1%であった。

学習等にかけた時間

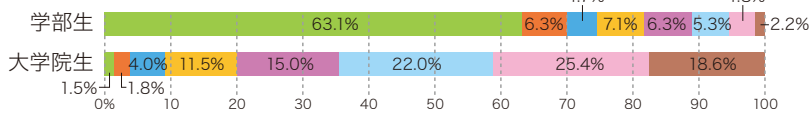
《授業》



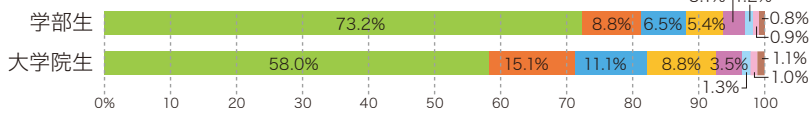
《授業のための予習・復習・関連学習》



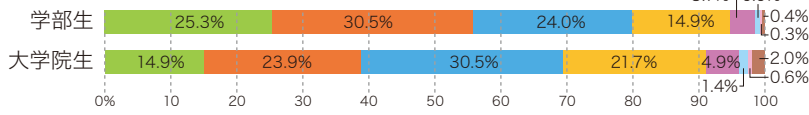
《研究・論文執筆》



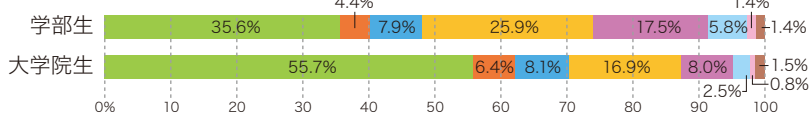
《資格取得・採用試験等のための学習》



《自分の知識や能力を高めるための学習・読書》



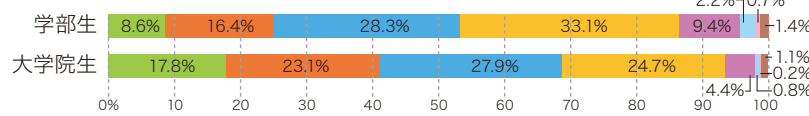
《アルバイト》



《サークル活動》



《友人と過ごす（上記以外）》



0分 30分未満 30分～1時間未満 1時間～3時間未満 3時間～5時間未満
5時間～7時間未満 7時間～10時間未満 10時間以上

● 学習等にかけた時間について、学部生は「授業」「授業のための予習・復習・関連学習」「アルバイト」「サークル活動」が多く、大学院生は「研究・論文執筆」が多い傾向にあった。

● 「授業」については、学部生の57%が3時間以上だったのに対し、大学院生の51%が1時間未満だった。

● 「授業のための予習・復習・関連学習」は、学部生の29%が30分～1時間未満、26%が1時間～3時間未満だったのに対し、大学院生の40%が0分だった。

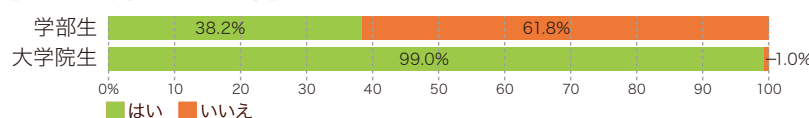
● 「研究・論文執筆」にかけた時間は、学部生の63%が0分だったのに対し、大学院生の66%が5時間以上かけていた。

● 「資格取得・採用試験等のための学習」や「自分の知識や能力を高めるための学習・読書」にかけた時間は、学部生よりも大学院生の方がやや多くなる傾向にあった。

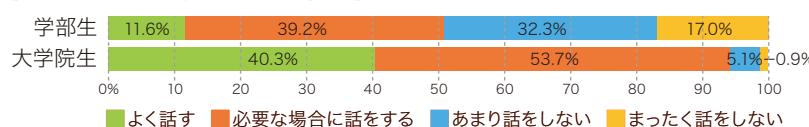
● 一方、「アルバイト」や「サークル活動」にかけた時間は、大学院生よりも学部生の方が多く、特に「サークル活動」については大学院生の81%が0分だった。

教職員との関わり

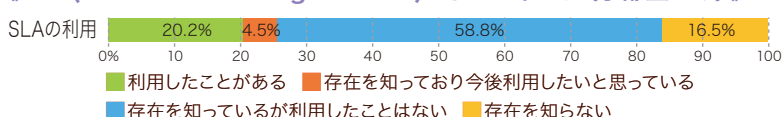
《指導教員（研究室配属）》



《東北大学の教員と直接話す機会》



《SLA(Student Learning Adviser)によるサポート（学部生のみ）》



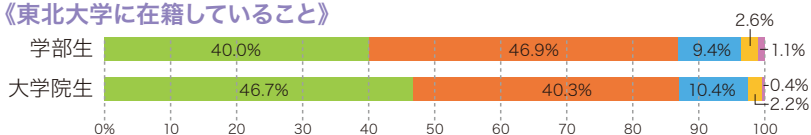
● 「指導教員（研究室配属）」について、学部生の38%、大学院生の99%が決定していると回答している。

● 「東北大学の教員と直接話すこと」について、学部生の51%、大学院生の94%が「よく話す」もしくは「必要な場合に話す」と回答している。

● 「SLAによるサポート」について、学部生の20%が「利用したことがある」と回答した一方、17%が「存在を知らない」と回答している。

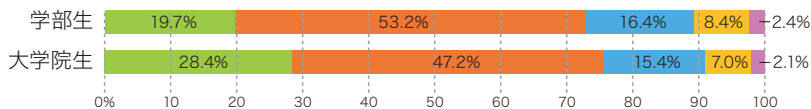
大学生生活の満足度

《東北大学に在籍していること》



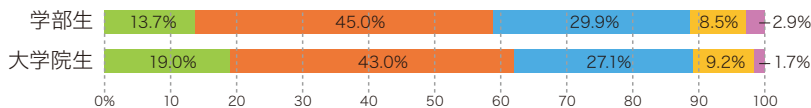
● 大学生生活の満足度について、学部生に比べ、大学院生のほうが多くの項目で満足度(「満足」「まあまあ満足」の合計)がやや高い傾向にあった。

《東北大学の授業や教育内容》



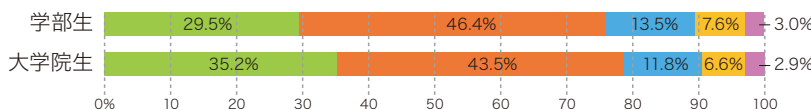
● 学部生で満足度が高いのは、「東北大学に在籍していること」87%、「研究室の先輩・後輩の関係」76%、「自分の所属している学部・研究科」76%、「現在の学生生活」76%、「指導教員の教育指導」76%、「指導教員との人間関係」75%の順であった。

《東北大学の学生支援体制》

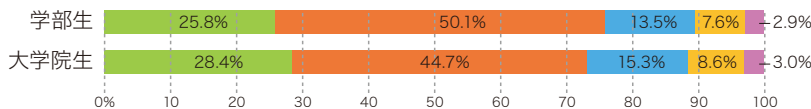


● 大学院生で満足度が高いのは、「東北大学に在籍していること」87%、「研究室の先輩・後輩の関係」79%、「指導教員との人間関係」79%、「自分の所属している学部・研究科」79%、「研究室の教育・研究環境」78%、「指導教員の教育指導」75%の順であった。

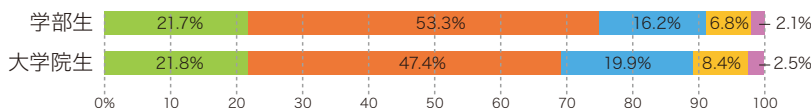
《自分の所属している学部・研究科》



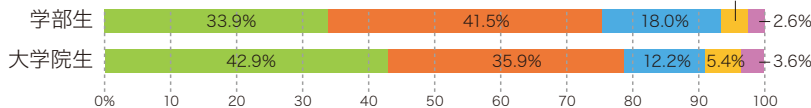
《現在の学生生活》



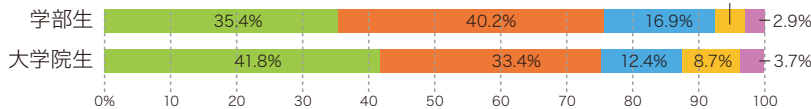
《キャンパス内で過ごす時間》



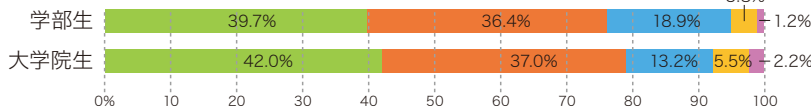
《指導教員との人間関係》



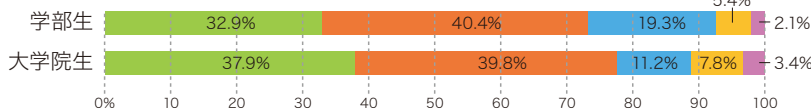
《指導教員の教育指導》



《研究室の先輩・後輩関係》



《研究室の教育・研究環境》



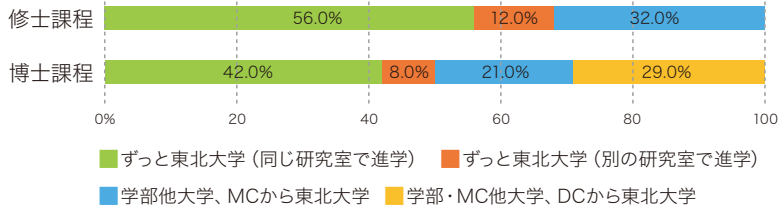
■ 満足している ■ まあまあ満足している ■ どちらともいえない ■ 少し不満である ■ 大いに不満である



資格取得や就職のための活動

● 「予備校・スクール・講座等への通学」については、学部生の3%、大学院生の2%が「通っている」と回答した。通学先として、学部生では「公務員採用試験」が、大学院生では「英語・英会話」が多い傾向にあった。

現在の所属までの経歴

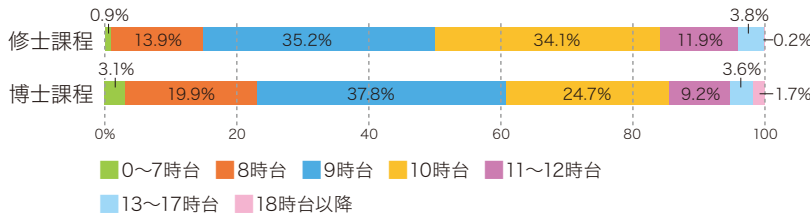


● 修士課程の56%が学部時代から同じ研究室に所属しており、12%が学内の他の研究室から、32%が他大学からの進学であった。

● 博士課程の42%が学部時代から同じ研究室に所属しており、8%が学内の他の研究室からの進学であった。また、他大学の学部を卒業して修士課程から東北大学に在籍している者が21%、博士課程から東北大学に在籍している者が29%であった。

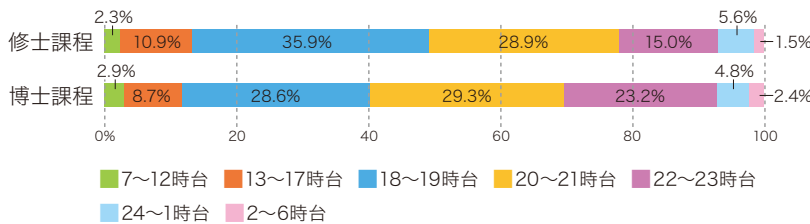
登下校時間

《登校時間》



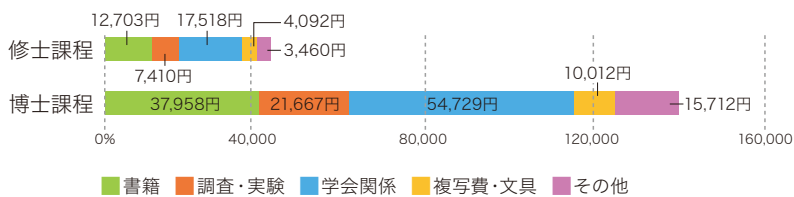
● 修士課程の96%、博士課程の95%が午前中に登校すると回答し、8時から10時の間に登校すると回答した者は修士課程の51%、博士課程の61%であった。

《下校時間》



● 修士課程の65%、博士課程の58%が18時から22時の間に下校していると回答した。22時以降に下校していると回答したのは、修士課程の22%、博士課程の31%であった。

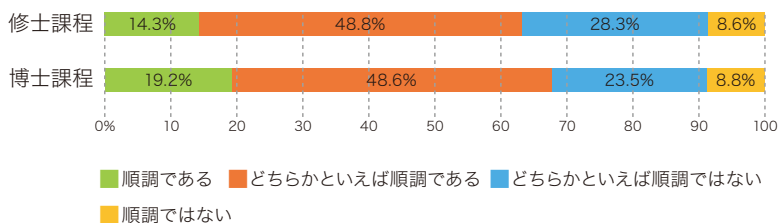
研究関連の支出（過去1年間）



● 年間あたりの研究に関する個人的支出の平均は、修士課程では4万5千円、博士課程では14万円ほどであった。

● 修士課程では書籍が1万3千円、学会関係が1万8千円程度であったのに対し、博士課程では学会関係が5万5千円、書籍が3万8千円、調査・実験が2万2千円などであった。

研究の進捗状況

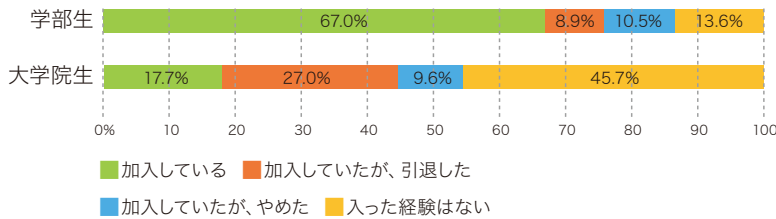


● 課程修了に向けて、研究が「順調」または「どちらかといえば順調」と回答したのは、修士課程で63%、博士課程で68%であった。

学友会員としての意識

- 自身が、本学すべての学生、役員及び教職員をもって組織される東北大学学友会の会員であることを知っていた学生の割合は、学部生73%、大学院生60%であった。

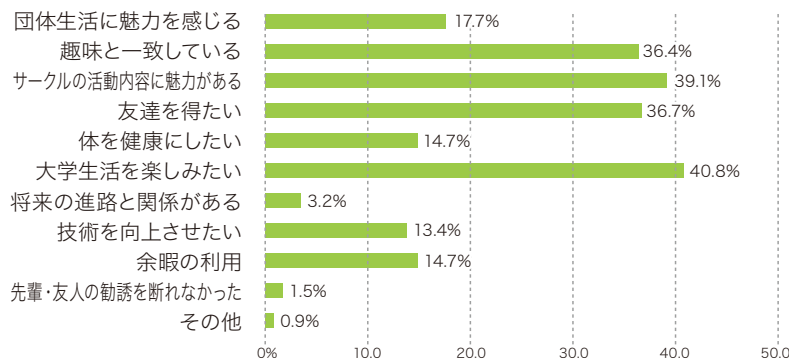
学友会の団体・サークル加入状況



- 学部生では86%が学友会団体・サークルに加入した経験があり、現在も加入中の学生は67%であった。一方、大学院生の54%は加入経験があるものの、現在加入している学生は18%であった。

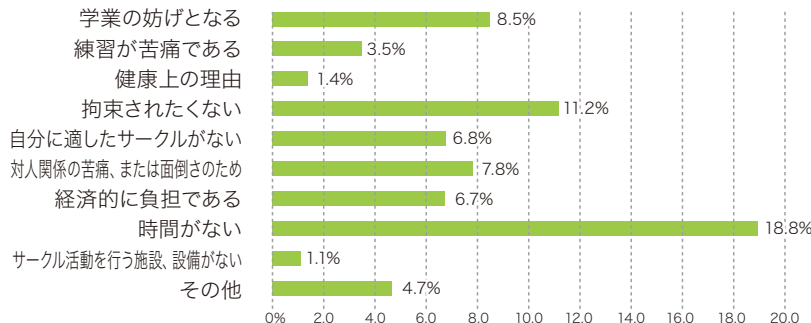
サークル加入の動機

《サークル加入の動機》



- 加入した動機では、学部生・大学院生ともに「大学生生活を楽しみたい」、「サークル活動内容に魅力がある」、「友達を得たい」、「趣味と一致している」の順であった。

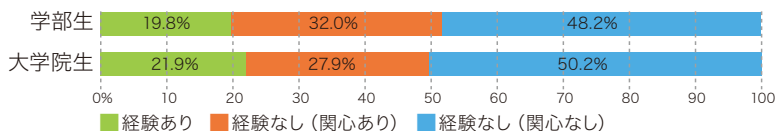
《加入していない・やめた理由》



- サークルに加入していない、あるいはやめた理由では、「時間がない」、「拘束されたくない」、「学業の妨げとなる」、「対人関係の苦痛・面倒さ」、「自分に適したサークルがない」、「経済的に負担である」の順であった。

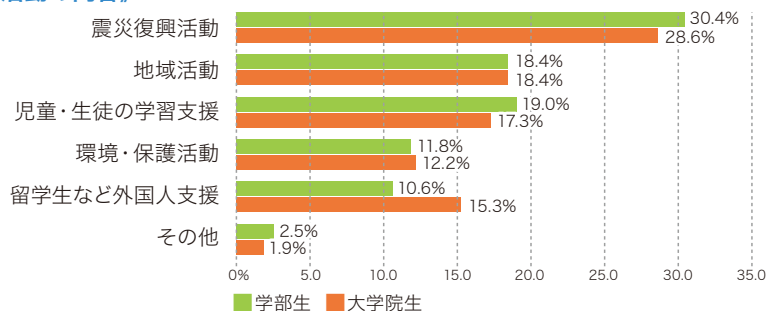
ボランティア活動の経験

《ボランティア活動の経験》



- 学部生の20%、大学院生の22%がボランティア活動を体験していた。そのきっかけは、学部生、大学院生ともに半数が「自発的に」、約30%が「友人・知人の紹介」、約10%が「学内の掲示」、他「部・サークル活動の一環」、「基礎ゼミ」であった。

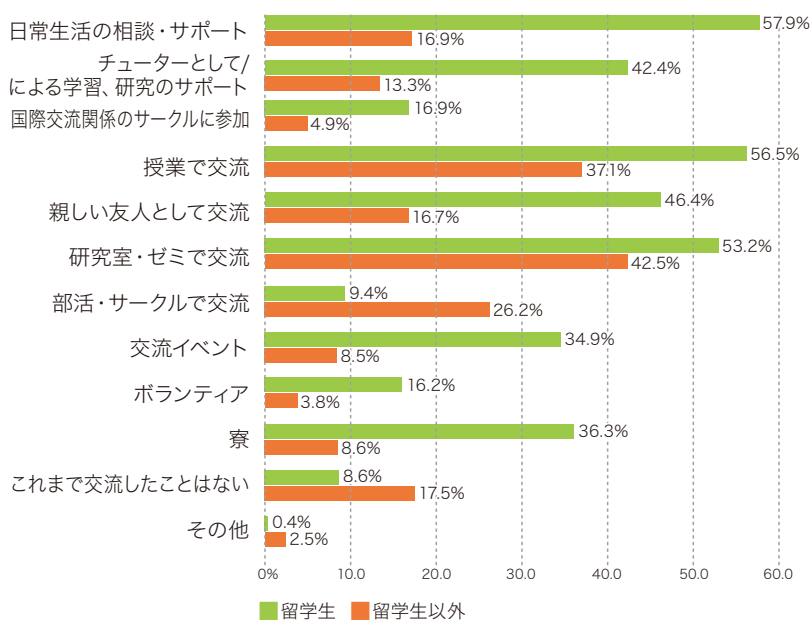
《活動の内容》



- 学部生および大学院生の約30%は、まだ経験は無いがボランティア活動に関心があると回答した。

- 活動内容は、およそ30%が「震災復興活動」、続いて「地域活動」、「児童・生徒の学習支援」、「環境・保護活動」、「留学生など外国人支援」であった。またその他として「障害者支援」、「イベントサポート」などがあつた。

国際交流の経験（複数回答）



●留学生は「日常生活の相談・サポート」が58%と最も多く、「授業で交流」57%、「研究室・ゼミでの交流」53%、「親しい友人として交流」46%、「チューターとして/による学習、研究のサポート」42%、「寮」36%、「交流イベント」35%の順であった。

●一方で留学生以外の学生では、「研究室・ゼミで交流」が43%と最も多く、続いて「授業で交流」37%、「部活・サークルで交流」26%、「日常生活の相談・サポート」17%、「親しい友人として交流」17%の順であった。

●これまでに国際交流をしたことのない学生は、留学生は9%、留学生以外は18%であった。



グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）

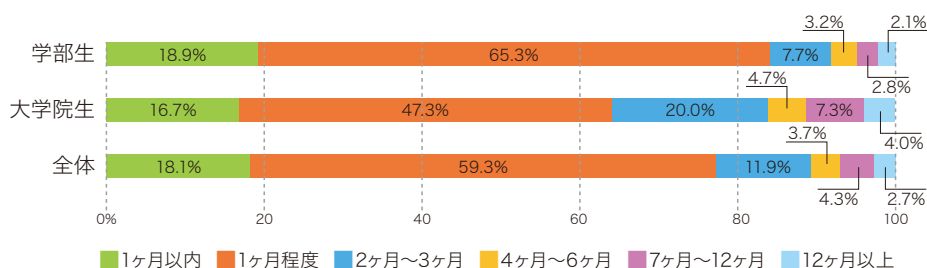
●東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）は、産学官の様々な分野でグローバルに活躍する人材を育成するために、平成25年度から始まった学部学生対象の登録制プログラムである。TGLプログラムについて知っていたのは、留学生が全体の66%で、そのうち登録しているのは全体の29%であった。一方、留学生以外では、全体の74%が知っており、そのうち登録しているのは全体の26%であった。

日本人学生の海外留学（複数回答）

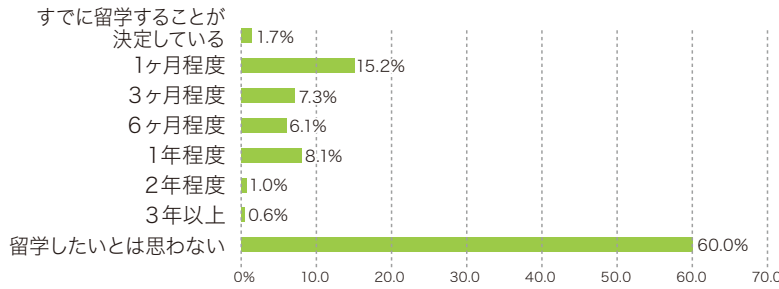
《海外留学の経験》

●東北大学入学後、大学内外の留学制度等を利用して留学したことがある学生は、全体の17%であった。そのうち「東北大学のスタディアブロードプログラムを使って短期留学をしたことがある」学生が8%と最も多く、「東北大学の各学部で提供するプログラムを使って海外研修・留学・海外インターンシップ等をしたことがある」5%、「民間の留学仲介を通じて留学・海外インターンシップをしたことがある」1%、「東北大学の学術交流協定を使って交換留学をしたことがある」1%、の順であった。

●留学期間は、「1か月程度以内」の学生が77%と最も多く、「2-3か月」12%、「7-12か月」4%、「4-6か月」4%、「12か月以上」が3%の順で、全体の89%が「3か月以内」の留学であった。留学期間の合計について、大学院生の方が学部生よりも長い期間となっていた。

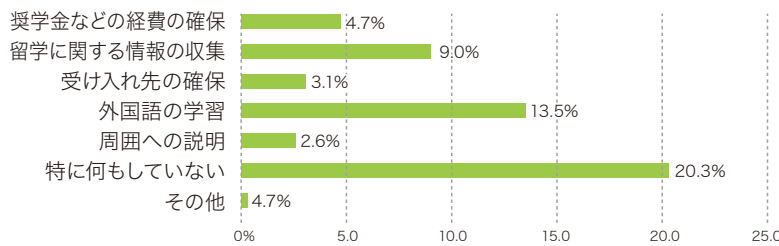


《在学中の海外留学希望》



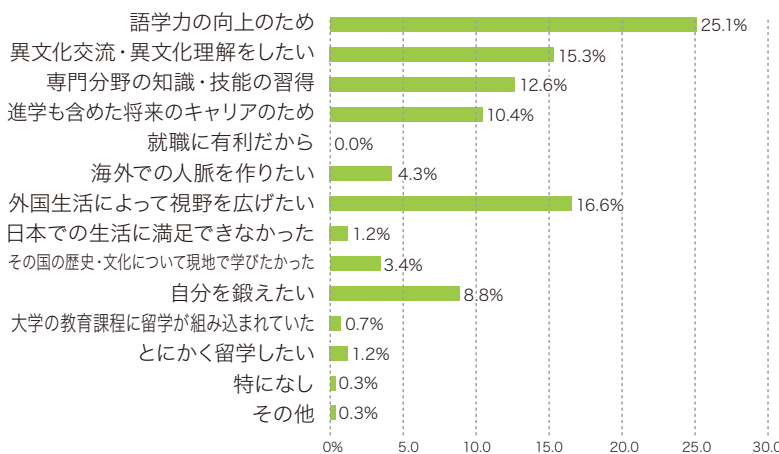
● 在学中の海外留学について、「1ヶ月程度の留学」をしたい学生が15%と最も多く、「1年以上の留学」10%、「3ヶ月程度の留学」7%、「6ヶ月程度の留学」6%の順であった。一方、「留学したいとは思わない」と答えた学生が60%であった。

《海外留学に向けた準備》



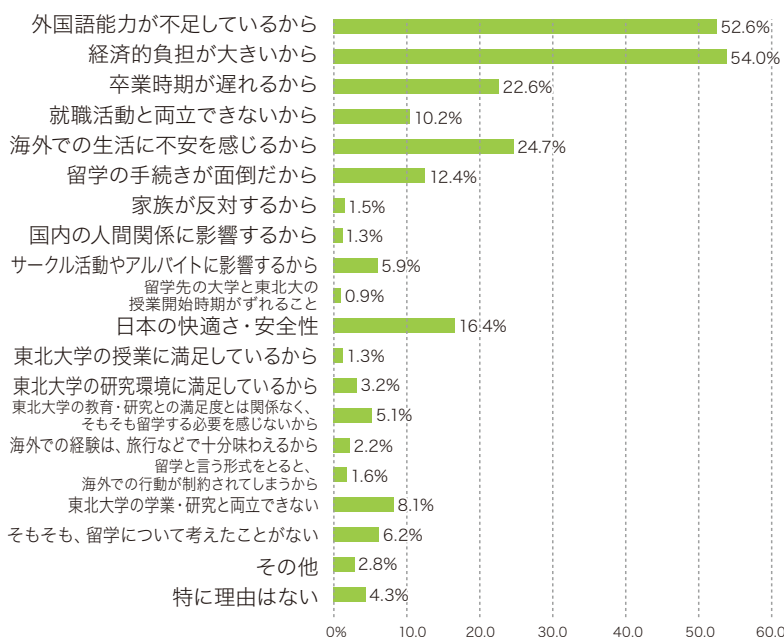
● 海外留学を希望する学生の準備状況について、「外国語の学習」が14%と最も多く、「留学に関する情報の収集」9%、「奨学金などの経費の確保」5%、「受け入れ先の確保」が3%の順であった。一方、「特に何もしていない」と答えた学生が20%であった。

《海外留学したいと思う理由／思った理由》



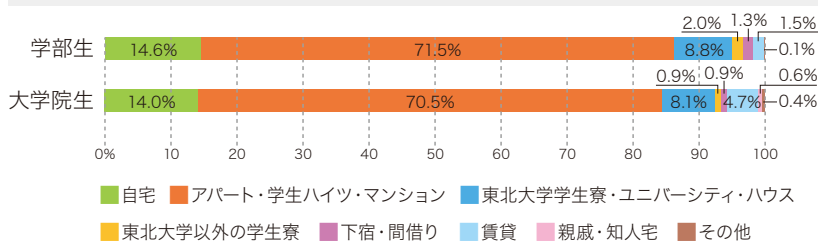
● 海外留学をしたい理由としては、「語学力の向上のため」が25%と最も多く、「外国生活によって視野を広げたい」17%、「異文化交流・異文化理解をしたい」15%、「専門分野の知識・技能の習得」13%、「進学も含めた将来のキャリアのため」10%の順であった。

《海外留学をためらう理由》



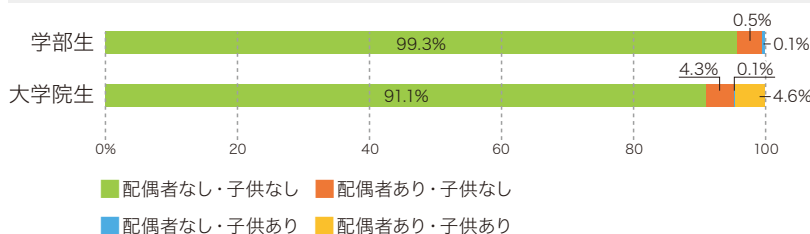
● 海外留学をためらう理由としては、「経済的負担が大きいから」が54%と最も多く、「外国語能力が不足しているから」53%、「海外での生活に不安を感じるから」25%、「卒業時期が遅れるから」23%、「日本の快適さ・安全性」16%、「留学の手続きが面倒だから」12%の順であった。

住居の種別



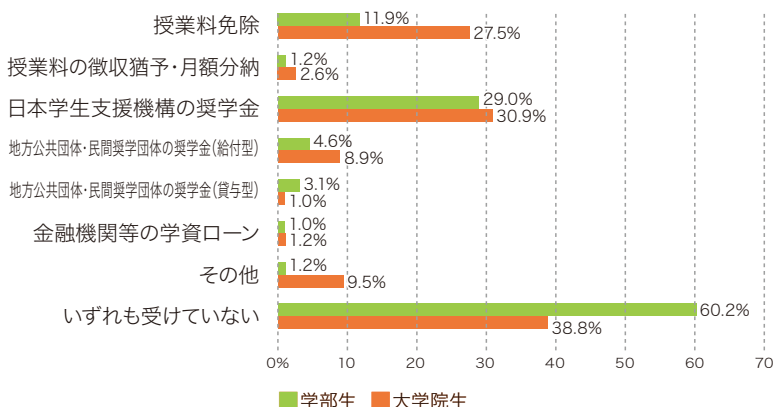
●現在の住居の種別は、学部生では「自宅」が15%、「アパート、学生ハイツ・マンション」が72%、「東北大学学生寮、ユニバーシティ・ハウス」が9%、大学院生では「自宅」が14%、「アパート、学生ハイツ・マンション」が71%、「東北大学学生寮、ユニバーシティ・ハウス」が8%であった。

配偶者・子供の有無



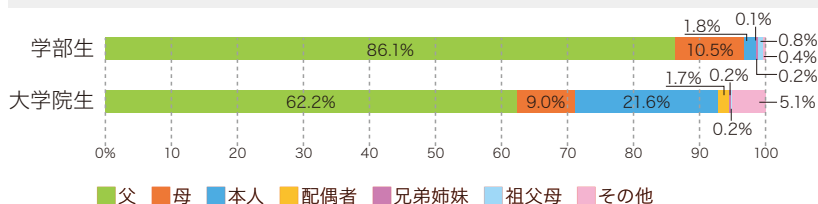
●「配偶者あり」と回答したのは、学部生の0.6%、大学院生の8.9%、「子どもあり」と回答したのは、学部生の0.1%、大学院生の4.7%であった。

受けている経済的支援(複数回答)



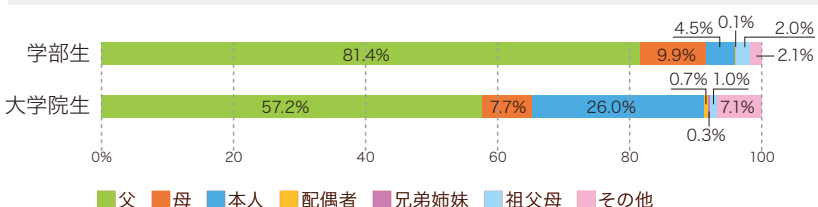
●学部生の40%、大学院生の61%は何らかの経済的支援を受けていた。奨学金の中では、「日本学生支援機構の奨学金」が最も利用されており、学部生の29%、大学院生の31%が利用していた。「授業料免除」を受けているのは、学部生の12%、大学院生の28%であった。

家計支持者



●「父」または「母」が主たる家計支持者であると回答したのは、学部生の97%、大学院生の71%、「本人」と回答したのは、学部生の2%、大学院生の22%であった。

授業料を主に負担している人

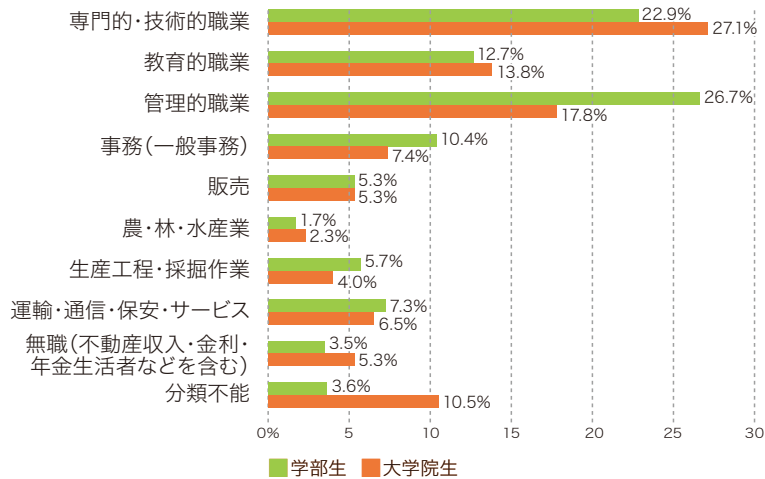


●「父」または「母」が授業料を主に負担していると回答したのは、学部生の91%、大学院生の65%、「本人」と回答したのは、学部生の5%、大学院生の26%であった。



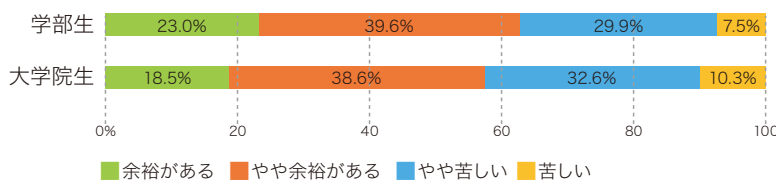
- 今年度から始まった学部生向けの給付型奨学金を大学院生にも拡張してほしい。
- 成績優秀者に対する給付型奨学金や授業料の減免を検討してほしい。
- 奨学金や授業料減免に関する情報の入手方法や申請方法をよりわかりやすくしてほしい。
- 授業料減免の基準を明確にほしい。
- 寮の施設・設備を特に衛生面から改善してほしい。
- ユニバーシティ・ハウスに住むことができる期間を長くしてほしい。

家計支持者の職業



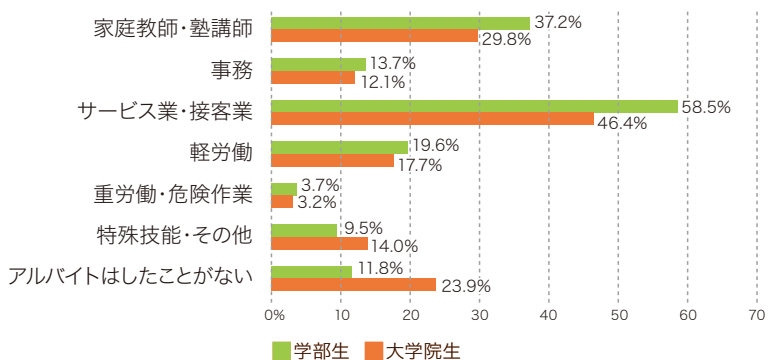
●主たる家計支持者の職業は、学部生では、「管理的職業」が27%、「専門的・技術的職業」が23%、「教育的職業」が13%、「事務(一般事務)」が10%、「運輸・通信・保安・サービス」が7%などであった。大学院生では、「専門的・技術的職業」が27%、「管理的職業」が18%、「教育的職業」が14%、「分類不能」が11%、「事務(一般事務)」が7%などであった。

経済的ゆとり感



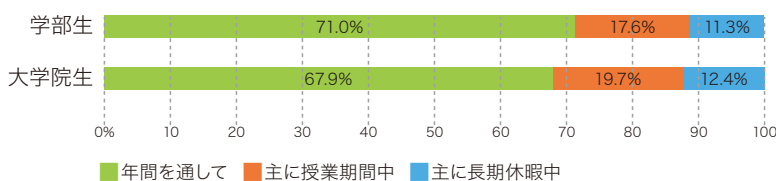
●経済的に自分の生活に「余裕がある」、「やや余裕がある」と回答したのは、学部生の63%、大学院生の57%、「やや苦しい」、「苦しい」と回答したのは、学部生の37%、大学院生の43%であった。

入学後経験したアルバイト(複数回答)



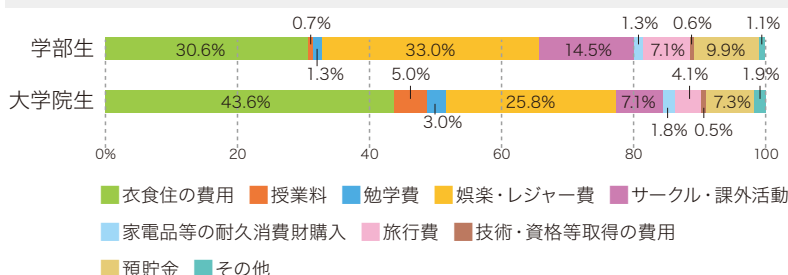
●入学後何らかのアルバイトを経験したのは、学部生の88%、大学院生の76%であった。経験したアルバイトの種類については、学部生では、「サービス業・接客業」が59%、「家庭教師・塾講師」が37%、「軽労働」が20%、「事務」が14%であった。大学院生では、「サービス業・接客業」が46%、「家庭教師・塾講師」が30%、「軽労働」が18%、「特殊技能・その他」が14%であった。

アルバイトした時期



●アルバイトを行った時期は、学部生は、「年間を通して」が71%、「主に授業期間中」が18%、「主に長期休暇中」が11%、大学院生は、「年間を通して」が68%、「主に授業期間中」が20%、「主に長期休暇中」が12%であった。

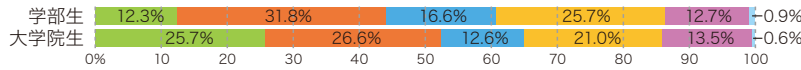
アルバイト収入の使途



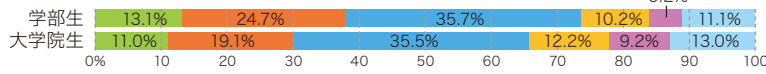
●アルバイト収入の使途としては、学部生は、「娯楽・レジャー費」が33%、「衣食住の費用」が31%、「サークル・課外活動費」が15%、「預貯金」が10%であった。大学院生は、「衣食住の費用」が44%、「娯楽・レジャー費」が26%、「授業料」と「勉学費」が合わせて8%、「預貯金」が7%、「サークル・課外活動費」が7%であった。

施設・設備等の満足度

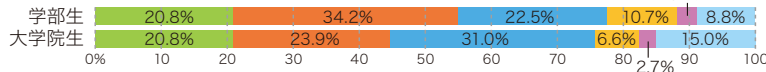
《キャンパス周辺の環境》



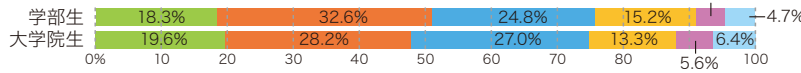
《体育館、グラウンドなどの施設》



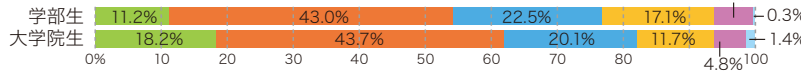
《自習室》



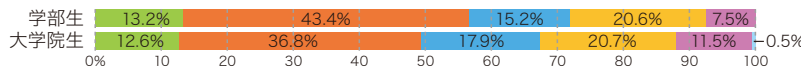
《談話室などの休息スペース》



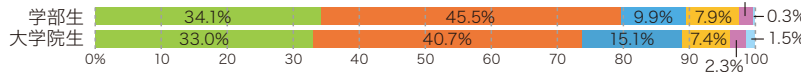
《授業や試験、教務に関する情報提供》



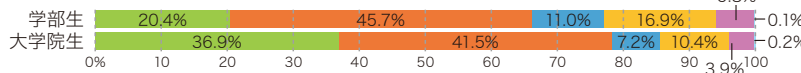
《食堂・購買部》



《図書館の利用方法や環境》

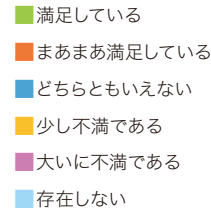


《インターネット環境》



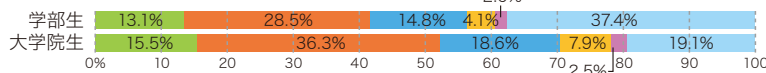
●「図書館の利用方法や環境」や「インターネット環境」を「満足している」または「まあまあ満足している」と回答した学部生と大学院生の割合は高かった。

●一方、「体育館、グラウンドなどの設備」を「満足している」または「まあまあ満足している」と回答した学部生や大学院生の割合は低かった。

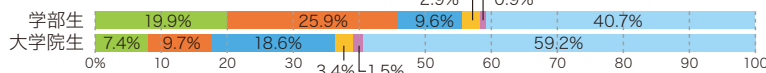


学生支援の充実度

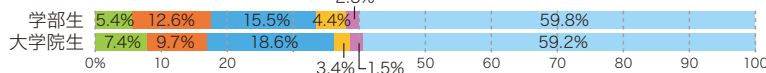
《キャリア・就職支援》



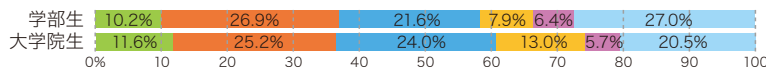
《留学生支援》



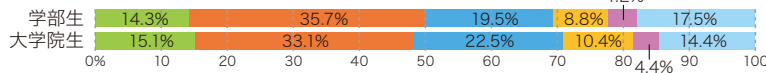
《障害のある学生への支援》



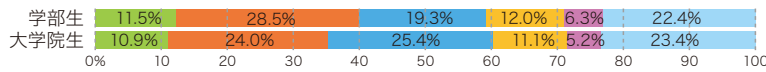
《精神的健康への支援》



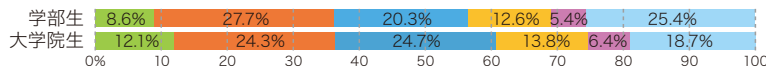
《身体的健康への支援》



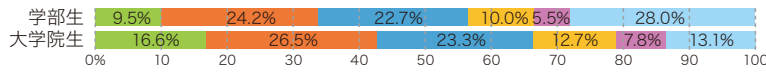
《課外活動支援》



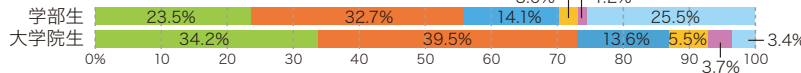
《住居・生活支援》



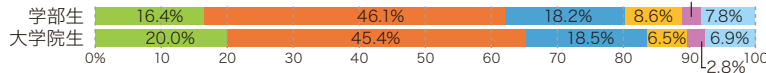
《経済支援》



《研究支援》

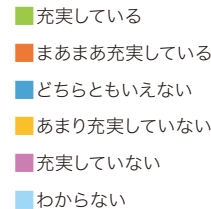


《学習支援》



●「学習支援」や「研究支援」を「充実している」または「まあまあ充実している」と回答した学部生と大学院生の割合は高かった。

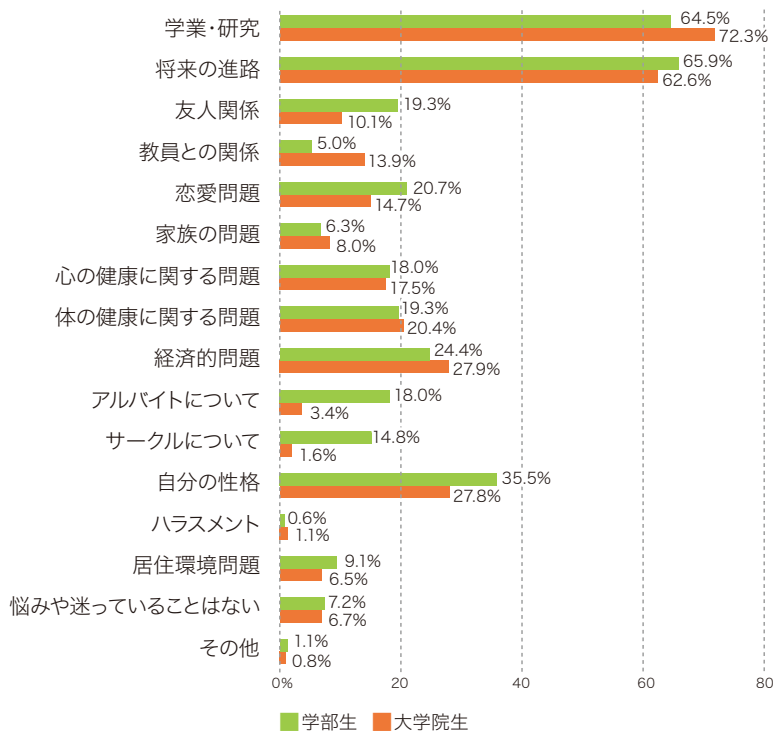
●また、「障害のある学生への支援」や「留学生支援」について「わからない」と回答した学部生と大学院生の割合が高かった。



学生相談・特別支援センター（学生相談所・特別支援室）の利用経験、認知度

- 学生相談所を「利用したことがある」と回答した学部生は9%、大学院生は11%、「利用したいと思ったことがある」と回答した学部生は8%、大学院生は9%であった。
- 利用の希望の有無にかかわらず、学生相談所の存在を知っているのは、学部生の66%、大学院生の73%であった。
- 特別支援室を「利用したことがある」と回答した学部生は5%、大学院生は7%、「利用したいと思ったことがある」と回答した学部生は6%、大学院生は7%であった。
- 利用の希望の有無にかかわらず、特別支援室の存在を知っているのは、学部生の60%、大学院生の64%であった。

現在の悩みや迷い（複数回答）



- 現在の主な悩みや迷いは、学部生では、「将来の進路」66%、「学業・研究」65%、「自分の性格」36%、「経済的問題」24%、「恋愛問題」21%であった。大学院生では、「学業・研究」72%、「将来の進路」63%、「自分の性格」28%、「経済的問題」28%、「体の健康に関する問題」20%であった。



悩みの相談相手（複数回答）

- 主な悩みの相談相手として、学部生では、「日本人の知人・友人」69%、「母親」52%、「父親」29%、「配偶者・恋人」19%、「兄弟姉妹」11%であった。大学院生では、「日本人の知人・友人」57%、「母親」44%、「配偶者・恋人」30%、「父親」28%、「東北大学の教員」18%であった。

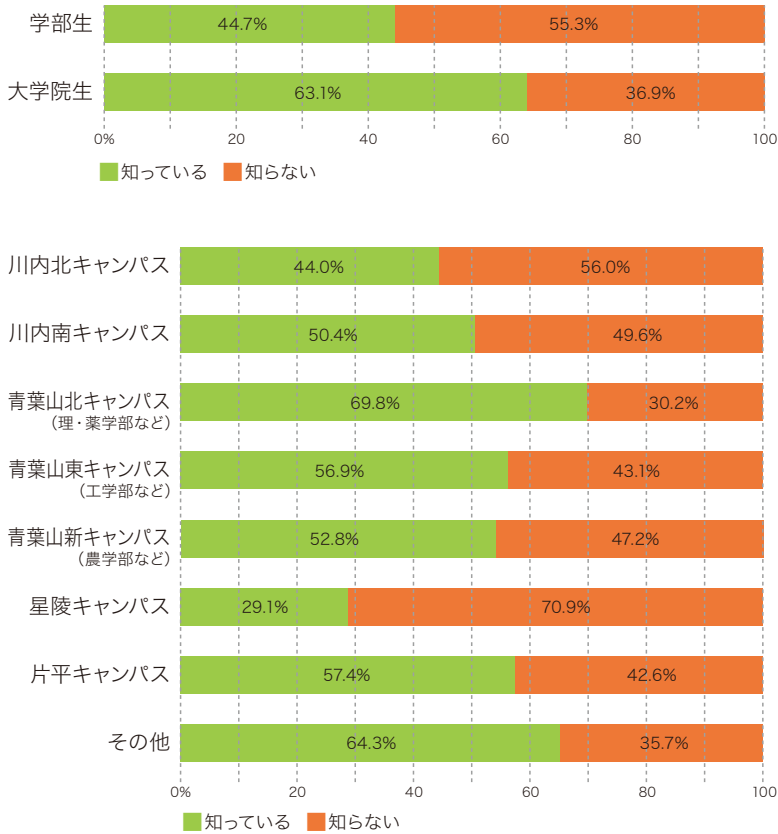
朝食の摂取について

- 「毎日食べている」と回答した学部生は56%、大学院生は53%であり、「ほとんど食べない」と回答した学部生は17%、大学院生は24%であった。

大学における居場所

- 大学に居場所があると感じていると回答したのは、学部生・大学院生ともに87%であった。

避難場所の認知度

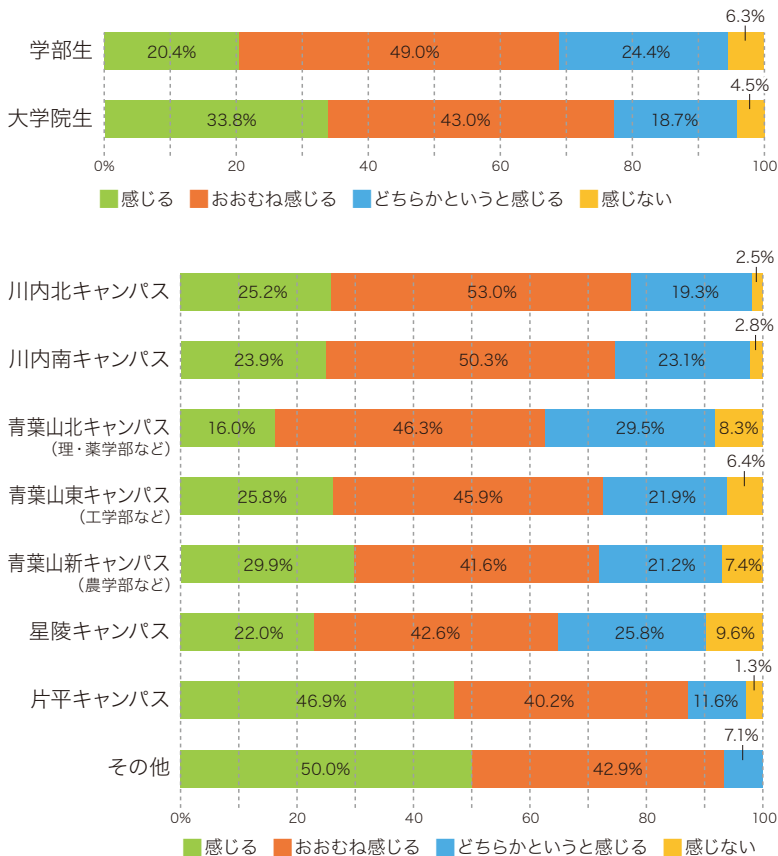


●通っているキャンパスの避難場所を「知っている」のは学部学生で45%、大学院生で63%であった。

●キャンパス別にみると青葉山北では70%の学生が知っていたが、星陵では29%、川内北では44%であった。



キャンパスの安全性



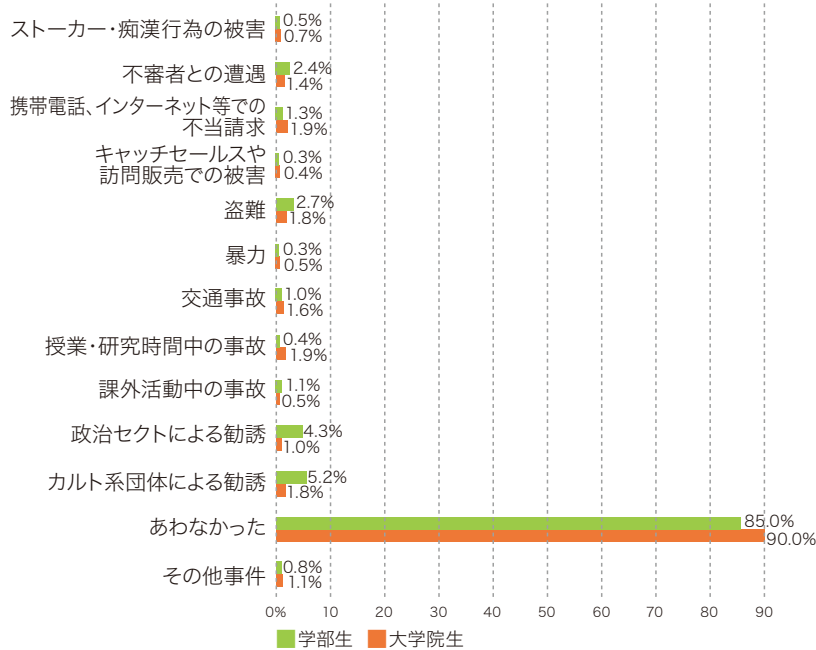
●自分のキャンパスを安全と「感じる」または「おおむね感じる」のは学部学生で69%、大学院生で77%であった。

●キャンパス別にみると、安全と「感じる」または「おおむね感じる」学生は、片平が87%と最も高く、川内北78%、川内南74%、青葉山東72%、青葉山新72%、星陵65%、青葉山北62%であった。

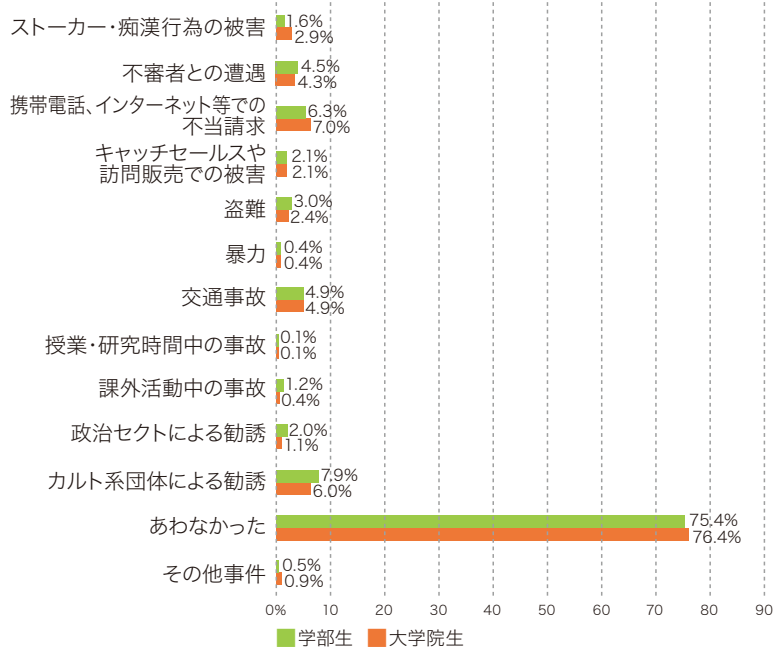
●安全と「感じない」学生は、星陵10%、青葉山北8%、青葉山新7%、青葉山東6%であった。その理由として、星陵では「建物や施設の老朽化」を、青葉山新では「クマの出没」「土砂災害の危険」、青葉山東と青葉山北では「建物や施設の老朽化」「クマの出没」「立地や通学路の不安」を挙げる学生が多かった。

事件・事故の被害

《学内での被害》



《学外での被害》



●過去1年間に学内で何らかの被害を受けた学部生は15%、大学院生は10%であった。学外では学部生大学院生ともに24%であった。

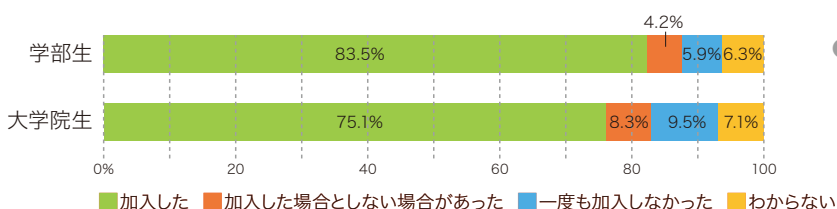
●学内では、学部生の5%が「カルト系団体による勧誘」、4%が「政治セクトによる勧誘」を経験していた。

●学外での被害は、学部生では「カルト系団体による勧誘」8%、「携帯電話、インターネット等での不当請求」6%、「交通事故」5%、「不審者との遭遇」5%などであった。大学院生では「携帯電話、インターネット等での不当請求」7%、「カルト系団体による勧誘」6%、「交通事故」5%、「不審者との遭遇」4%などであった。

●カルト系団体からは、学内より学外で勧誘されたことのある学生が多かった。学内では「川内北キャンパス」、学外では「自宅・アパート」「街中」で勧誘される学生が多かった。勧誘回数は1回(21%)、勧誘された時期は1年生の4月(29%)と5月(16%)、2年生の4月(14%)、1年生の10月(11%)が多かった。



海外渡航経験と旅行保険

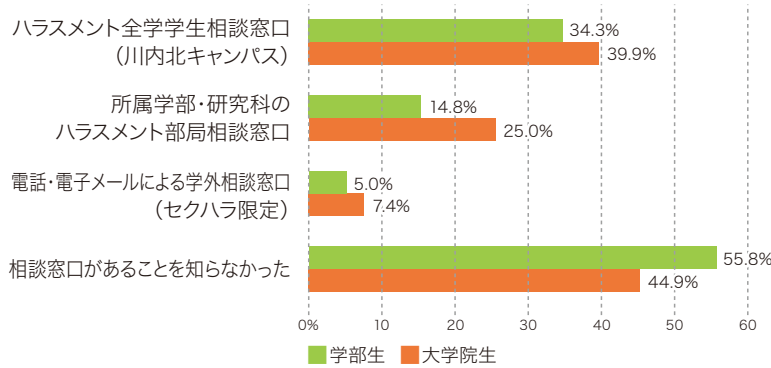


●東北大学入学後の海外渡航経験は、学部学生は30%、大学院生は50%が「ある」と回答した。そのうち学部学生は84%が、大学院生は75%が旅行保険に加入していた。

本学のハラスメント問題への取り組み

●「知っていた」と回答した学部生は39%、大学院生は59%であった。

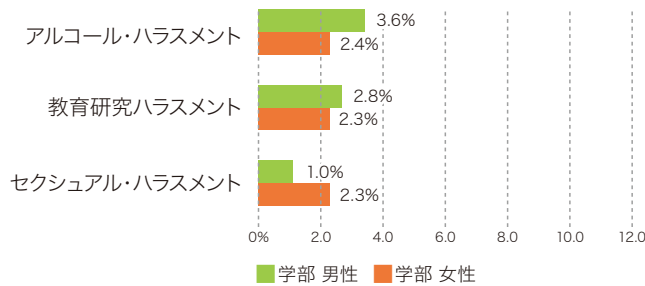
ハラスメント相談窓口の認知度



●全学学生相談窓口の認知度は、学部生で34%であり、大学院生で40%であった。部局(学部研究科)の相談窓口の認知度は、学部生で15%、大学院生で25%であった。「ハラスメント相談窓口があることを知らなかった」のは、学部生で56%、大学院生で45%であった。

ハラスメント被害の経験

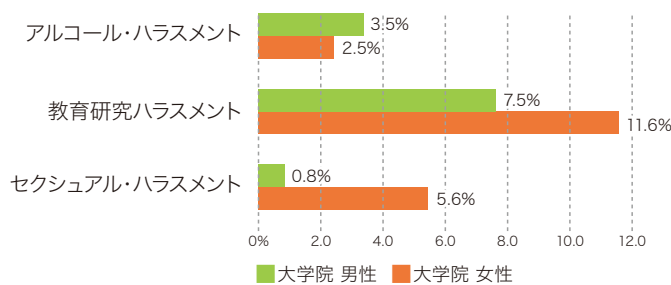
《学部生》



●アルコール・ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が3.6%、女子学生が2.4%、大学院生では、男子学生が3.5%、女子学生が2.5%であった。

●教育研究ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が2.8%、女子学生が2.3%、大学院生では、男子学生が7.5%、女子学生が11.6%であった。

《大学院生》

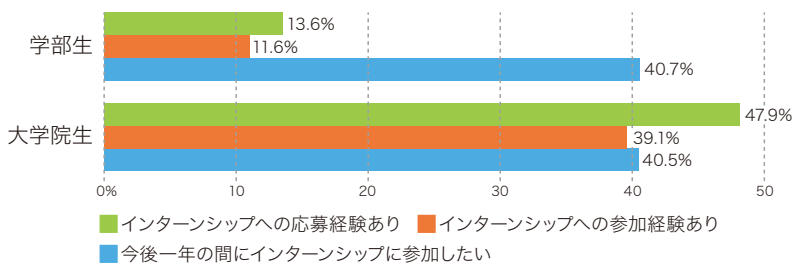


●セクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が1.0%、女子学生が2.3%、大学院生では、男子学生が0.8%、女子学生が5.6%であった。



- ハラスメントを行っている人に対して厳しく処分してほしい。
- 学生からの情報を待たずに、能動的に調査してほしい。
- ハラスメント対策を講じていることについて、より情報が発信されるとよいように感じる。
- メンタルヘルスのことも含め、あまり手続きを踏まずに手軽に相談できるようにした方がよいと思う。

インターンシップへの応募・参加経験

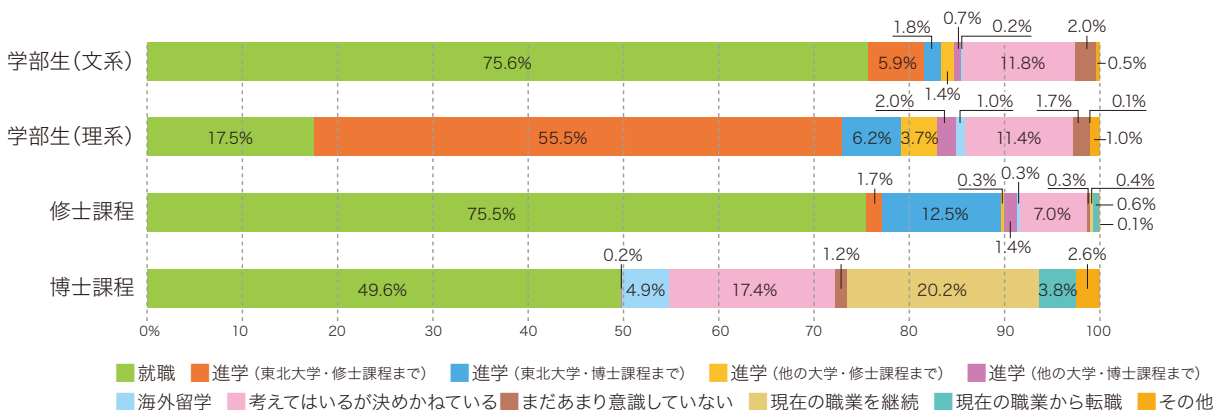


●学部生の14%がインターンシップへの応募を経験し、12%が実際に参加した経験を持っていた。また、41%が今後一年の間にインターンシップに参加したいと回答した。

●大学院生では、48%が応募経験を持ち、実際の参加経験者は39%。また、41%が今後一年の間にインターンシップに参加したいと回答した。

卒業後に希望する進路

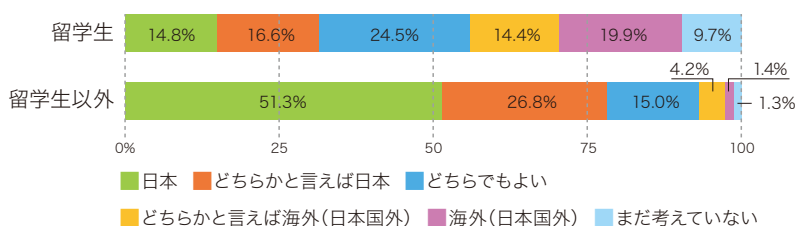
- 文系の学部生では、「就職」が76%、「進学(東北大学・修士課程まで)」が6%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が2%、「考えてはいるが決めかねている」が12%などであった。
- 理系の学部生では、「進学(東北大学・修士課程まで)」が56%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が6%、「進学(他の大学・修士課程まで)」が4%、「就職」が18%、「考えてはいるが決めかねている」が11%などであった。
- 修士課程では、「就職」が76%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が13%、「考えてはいるが決めかねている」が7%などであった。
- 博士課程では、「就職」が50%、「現在の職業を継続」が20%、「海外留学」が5%、「考えてはいるが決めかねている」が17%などであった。



希望する職業(複数回答)

- 文系の学部生では、42%が「事務職」、25%が「営業・販売職」、21%が「専門職」、9%が「研究職」、25%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 理系の学部生では、49%が「研究職」、39%が「技術職」、22%が「専門職」、18%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 修士課程では、54%が「技術職」、48%が「研究職」、10%が「専門職」、12%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 博士課程では、79%が「研究職」、24%が「技術職」、17%が「専門職」、5%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。

就職を希望する国



●留学生では、15%が「日本」、17%が「どちらかといえば日本」、25%が「どちらでもよい」、15%が「どちらかといえば日本国外」、20%が「日本国外」、10%が「まだ考えていない」と回答した。

●留学生以外では、51%が「日本」、27%が「どちらかといえば日本」、15%が「どちらでもよい」、4%が「どちらかといえば日本国外」、1%が「日本国外」、1%が「まだ考えていない」と回答した。



平成29年度【東北大学学生生活調査】のまとめ

東北大学生の生活

Life of Tohoku University
Students

【発行】 東北大学学生生活支援審議会 平成30年3月



このパンフレットは環境に配慮した
「水な」印刷により
印刷しております。



環境にやさしい植物油インキ
【VEGETABLE OIL INK】で
印刷しております。